

(調査報告書)

国名	インドネシア
プロジェクト形成調査地	西ティモール ヌサテンガラ・ティモール州
プロジェクト名	西ティモールにおける難民及び貧困層の栄養改善事業
事業概要	西ティモールでも特に貧困層の多い地域において、近年、東ティモールでの紛争による難民の大量流入、気候変動による環境の悪化と農作物の不作といった要因が重なり、結果、政府からも「栄養失調の危機」宣言が出されるに至った。ケア・インターナショナル ジャパンはこのような状況を踏まえ、栄養改善事業実施のための調査を行う。
調査者	貝原塚 二葉
調査期間	2008年1月27日～2月3日（帰国便が欠航のため予定より1日延期）

【プロジェクト形成調査の概要】

西ティモールの位置するヌサテンガラ・ティモール州はインドネシアでも最も貧困な州のひとつである。東アジア経済危機、地方分権化に伴う開発資金の削減、自然災害の発生、東ティモールでの紛争と難民流入が同地域の貧困を深めている。貧困、穀物の不作、気候変動、環境悪化が深刻化し穀物の不作となっており、同州の住民は食料の安全保障の危険にさらされている。2006年には、エルニーニョ現象による食糧不足のため、政府が「栄養失調の危機」を宣言した。

このような状況の把握のため、自己資金にて9月～10月に現地調査を実施した。西ティモールでは、1999年の選挙と東ティモールでの紛争による難民の大量流入が続いており、現在も約28,000名の難民が避難していると言われる。そのうち少なくとも16,000名はまだ仮設住宅に住んでおり、土地や施設へのアクセスも制限されている。同様に、すでに同州に再定住した12,000名も土地や水・衛生施設へのアクセスが制限され、住宅事情も悪い。現地の資源へのアクセスをめぐって小規模な緊張関係や紛争が起こっており、現地コミュニティとの融和は困難となっている。

今回の調査で西ティモールでのプロジェクト形成のフォローアップを計画したが、投入規模と効果の費用対効果からすると、実施が困難と判断した。これに代わって、近年自然災害で甚大な被害を蒙る国であるため、防災プロジェクトの形成調査を行った。ジャワ島にて、ニーズ調査を実施すると共に、現地協力NGOのプロジェクトを視察して今後のプロジェクトのアイディアをもらった。

【今後の事業形成の展望】

今後も現地CAREとの情報交換と調整を継続し、JICAインドネシア事業との連携も視野に入れながら事業形成の可能性を探る。

【調査日程】

1/27(日)	成田発 現地着
1/28(月)	スハルト元大統領死去の為、事務所閉鎖・ホテルにて待機
1/29(火)	資料整理、スケジュール確認、プロジェクト企画立案準備
1/30(水)	ジャワ地震支援事業の視察と関係者からの聞き取りによる現地での支援実施状況把握調査
1/31(木)	プロジェクト企画立案にかかる調整、在インドネシア日本国大使館訪問
2/1(金)	JICAインドネシア事務所訪問（大雨と洪水により帰国便が欠航）
2/2(土)	インドネシア発
2/3(日)	成田着

(インドネシア調査の写真)



ジャワ地震支援事業で再建されている住宅



ジャワ地震支援事業で再建されている住宅



ラジオによる情報伝達活動の様子